

科目名称:	保育内容「表現A」の指導法	
担当者名:	森田 ゆかり	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
1. 造形活動を通して子ども一人一人の発達や思いを読みとれることを知り、子ども理解を深める。 2. 五領域・表現を総合的に捉え、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。 3. 素材や遊びとの出会い（造形遊び）を重ね、表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付ける。		
授業の達成目標・到達目標		
1. 領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 2. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 3. 実践の振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 4. 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)	50		50		100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》アートスクール講師（2歳児～小学生の絵画・造形指導）	《経験年数1》2年6か月
	《内容2》アートディレクター（子ども対象のワークショップなど企画・実践）	《経験年数2》4年10か月
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
事前学修	期待以上の主体的な事前学修に取り組んでいる。	全ての事前学修に取り組んでいる。	ほぼ事前学修に取り組んでいる。	事前学修を全くしていない。
理解度	授業の目標・内容を理解し期待以上の主体的な学修が見られる。	授業の目標・内容を理解し実践しようとしている。	授業の目標・内容を理解している。	授業の目標・内容を理解していない。
指導案作成	教科書・参考書を活用するなど主体的な学修が見られる。	指導案の構造を理解し、こどもの姿をイメージしながら作成している。	指導案の構造を理解している。	指導案の構造を理解していない。
自分の考えの伝え方（ワークシート、試験）	自分の考えを読む人に伝え納得させることができる。	自分の考えを論理立てて読む人に伝えることができる。	自分の考えを読む人に伝えることができる。	自分の考えが読む人に伝わらない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 領域「表現」のねらい及び内容、小学校の「教科」との違い・つながり、造形の基礎知識①コンテ、色鉛筆、素材・遊びとの出会い①凹凸を写し取る（フロッタージュ）（ICT機器使用）	シラバスを精読しておく。	15分
第2回 造形活動の指導②凹凸を写し取った紙を活かす	第1回の授業内容（遊びとの出会い①）を復習。	15分
第3回 素材・遊びとの出会い②コンテ、墨汁+割り箸、造形活動の指導①子どもの魅力的な線を活かす工夫（ICT機器使用）	第1回、第2回授業での体験からの気づきを復習。	15分
第4回 素材・遊びとの出会い③紙で遊ぶ	第1回～第3回授業での体験からの気づきを復習。	15分
第5回 素材・遊びとの出会い④小麦粉粘土をつくって遊ぶ（グループワーク）（ICT機器使用）	第1回の授業内容（領域「表現」のねらい及び内容）について復習。	15分
第6回 保育の改善①子どもの絵の見方、「世界児童画展」会場で絵を読み、子どもの声を聴く（ICT機器使用）	「世界児童画展」について調べ学習	20分
第7回 造形活動の指導③ 指導案を書く1（3歳児 小麦粉粘土）ねらい・環境構成および準備（ICT機器使用）	指導案に関して「実習指導A」などで学んだ内容を復習。	20分
第8回 造形活動の指導④ 指導案を書く2（3歳児 小麦粉粘土）こどもの活動・指導上の援助・留意点（ICT機器使用）	指導案に関して「実習指導A」などで学んだ内容を復習。	20分
第9回 素材・遊びとの出会い⑤紙で遊ぶ 造形活動の指導⑤でんぷん糊を使う（ICT機器使用）	「糊」に関する調べ学習。	20分
第10回 保育の改善②子どもの育ちを歪める大人の言動、保育現場での実践（子どもの姿を見る）（ICT機器使用）	「描くことにまつわる幼少期の体験」について記しておく。	20分
第11回 造形活動の指導⑥ 指導案を書く3（3歳児 小麦粉粘土）添削指導	第8回の授業で課された「指導案」を指定の提出日までに提出する。	60分
第12回 実習での学び 造形活動の指導⑦はさみ（ICT機器使用）	「はさみ」に関する調べ学習。	20分
第13回 素材・遊びとの出会い⑥光で遊ぶ・影で遊ぶ・身体で遊ぶ（OHP使用）	授業の目的に合った素材、ものを探しておく。	20分
第14回 素材・遊びとの出会い⑦スクラッチ 造形の基礎知識②紙（ICT機器使用）	「紙」に関する調べ学習。	20分
第15回 造形活動の指導⑧体験が指導案につながる・スクラッチ、素材・遊びとの出会い⑧せんたくばさみ（ICT機器使用）	第14回授業での体験からの気づきを復習。	15分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、上記以外に次回までの小レポートをまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
指導案30%、事前学修5%、ワークシート15%（毎回配付されるワークシートを授業内で各自作成し提出）

課題に対してのフィードバック

毎回作成・提出されるワークシートには全て担当者が目を通し、返却する際、ワークシートの記述内容に即してプリントなどで補足しながら振り返りを行う。

教科書・参考書

教科書：「これで安心！保育指導案の書き方」（開仁志編著、北大路書房）教科書は授業で適宜使用する
参考書：「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」
必要に応じてプリントを配付